

幼子とともに

2024 年度 9月号

はじめに

長い夏休みを終え、いよいよ二学期が始まりました。子どもたちは、夏休みを十分に楽しんで過ごされたでしょうか。酷暑や台風により、思い通りにいかない計画もあったかもしれません。ただ、子どもたちは、休みの間にも、沢山の経験や刺激を受けながら、それぞれの個性をもって、一回り大きく成長されたのではないかと思います。二学期は、そのような経験から得られる成長の積み重ねを基にして始まります。幼稚園としましても、そのような子どもたちの今をしっかりと受け止めつつ、こどもに寄り添いつつ、歩み出したいと考えています。どうぞ、今学期もよろしくお願い申し上げます。

本気だからこそ楽しい

8月22日～23日にお泊り会が行われました。当初の予定では、7月となっておりましたが、落雷による停電が発生し、一時、電気や水道が使えなくなりました。皆様のご予定に、多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを、改めて、心よりお詫び申し上げます。

さて、大幅な予定変更はありましたが、夏期保育終了日の翌日から、お泊り保育を行うことができました。初めは不安そうな子どもたちでありましたが、先生に言われた約束「自分のことはできるだけ自分です」「困っているお友達がいたら助ける」「本当にできなければ助けを求める」をしっかりと守り、子どもたちなりに協力し合いながら、楽しい時間を過ごしてくれたと思います。

お泊り保育では、様々なイベントが企画されていますが、その中で、特におススメが先生たちによる「お化け屋敷」です。詳細をお伝えすることはできませんが、先生方のおどかし方が「本気」なのです。だから、子どもたちもまた、素直に怖がり、叫びながら、目的を果たしてゴールを目指します。園長は、お化け屋敷のガイド役で、子どもたちを励ましながら、勇気づけながら、ゴールまでの手助けをします。

全員が、それぞれのペースでゴールをした後、再度、お化けたちが登場します。子どもたちは、再度、泣き叫びながら、机の下に隠れたり、園長に向かって走り寄って来たりします。子どもたちは、常に本気です。そして、それが素直なリアクションを生みます。怖いものは怖い。それを我慢せずに、体で表現をします。実は、この姿が、とても大切なのです。

以前にもお話をしましたが、怖いという感情は、とても大切なのです。正しく怖がることを知らないと、怖いものとそうでないものの区別がつきにくくなるのです。怖いこと、危ないことを理解していないと、平気で危ないことに手を出してしまうこともあるのです。正しく怖がり、怖いものは怖いと言える、あるいは、怖い気持ちと戦いながら向き合っていく、工夫して逃げるなど、これから子どもたちが学ぶべき危機管理の基本が、ここから整えられていくのです。そして、そのような気持ちを作り上げていくために、教師たちは、あくまでも本気でなければいけないのです(笑)

色々あります！二学期は！

一年間の内、一番、子どもたちの発達・成長が感じられるのが二学期であると思います。夏休みを終えて、幼稚園に慣れてきた子どもたちが、それぞれの程度はあるにせよ、次第に出来ることが増えたり、伝えたいことを伝えられたりするようになります。年少組は、先生と自分の世界から自分と友だちの世界へとますますその輪を広げ、年中組は、自分の思い、自分のやりたいことが明確になり、年長組は、出来ることが増えて、いよいよ最年長であることの自覚が生まれていきます。勿論、全ての子どもに当てはまるわけではありませんが、目に見える部分でもそうでない部分においても、成長がよく見られる時期となっています。

ただ、その一方で、友達間のトラブルや生活での不安、出来ないことへの恐れや劣等感なども生まれやすい

のが、この時期でもあるでしょう。特に、二学期は大きなイベントもあるため、そういう一時の嵐を経験することもあるだろうと思いますし、出来たはずのことが出来ない、もしくは、やらない、という姿が見られるかもしれません。あるいは、赤ちゃんに戻っていくなどの形を取る場合もあるかもしれません。

しかし、こういう時期が、とても大切なのです。言うならば、この時期は大切な助走の期間であるとも言えるかもしれません。この時期に、何かを無理にさせてしまったり、子どもを叱ってしまったり、より不安要素を与えてしまうと、子どもたちは増々苦しんでしまいます。

大切なことは、子どもたちを信じて、存在を受け入れながら、待つことであると思います。子どもたちもまた成長過程で、様々な苦しみや痛みを経験していることを覚え、幼稚園や自宅での生活の中で、少しでも心の安らぎや居場所が得られるように、工夫をしていくことが大切なのです。子どもたちの中に変化が見られた際は、ぜひ、幼稚園にご相談いただければと思っています。一緒に、子どもたちの成長のために、励ましあっていきましょう。そして、何よりも、「この時期はそういうものだ！」という気持ちで、保護者の皆さまも安心して子育てに向かっていただければ幸いです(o^ー^o)ｺ

腰が肝心

この夏、園長・副園長は、教会関連のイベントや業務、幼稚園の業務などに追われ、まとまった休みを取ることはできませんでした。それ自体は慣れていますので何も問題はありません。

教会の冠婚葬祭が続き、キャンプ、教会イベントが続き、日曜日の礼拝、夏期保育の期間、急ぎの事務作業を三日間し続けていたら、疲れがたまっていたのでしょうか、背中と腰を痛めてしまいました。「腰」とは「体」の「要」と書きますが、正に、その通りで、腰を痛めただけで、私生活が十分に機能しないのだと思い知らされた次第です。

二時間仕事をしたら、二時間休むを繰り返し、何とかお泊り保育を終え、8月最後の週には全回復をしたところです。本当に休みは大切ですね(ー_ー)

体だけではなく、子どもの成長においてもまた「要」の期間があります。人間形成の要とも言えるかもしれません。それが、幼稚園で過ごす三年間なのです。子どもたちは、この時期から人間性を形成し、世界観を広げていきます。だからこそ、子どもたちにとって良いもの、子どもたちに優しいものを、出来るだけ沢山、注ぎ込んでいきたいものです。子どもたちが、自分の存在を認め、受け入れ、愛し、生きることが楽しい、嬉しい。そういう気持ちを、この時期に育てていきたいと思うのです。ここに、幼児教育の大切な役割があると言えるのです。園長 須賀 工

栄養士だより いけだ かすみ

＜＜E テレ！がおもしろい＞＞

「バビブベボディ」「はたらく細胞」Eテレのこのふたつの番組をご存じでしょうか？

＊バビブベボディ

最先端医学映像を使いながら、アニメや幼い子どもたちにも分かりやすい言葉で、身体それぞれの臓器について教えてくれる番組です。例えば、腎臓の回では、水を飲んで身体の中でどうやっておしっこになるの？とか、大腸の回ではうんちが出るのは大腸の働きがあるなんだ、など、楽しみながら理解できる番組です。（残念ながら、以前放映されていて、現時々単発で放送されています。録画してあるので、よろしければお声掛けください。）

＊はたらく細胞

人の細胞の数はおよそ3 7兆個です。その細胞たちは身体という世界の中で毎日休むこと働き続けています。酸素を運ぶ赤血球と細菌と戦う白血球を中心に、身体の中で起こっている事を説明してくれます。二酸化炭素を肺に届け、酸素を体内の細胞に届ける事が赤血球（赤細胞のひとつです）のお仕事で広い身体の中で様々な道（血管）を駆け巡ってくれています。というように、わたしたちの身体の中を舞台に外界で起きたことを身体の中では、どんなふ対応しているのかを教えてくれます。用語など難しいこともあるのですが、細胞を擬人化しストーリーとなっています。

このように身体の中のことを知ることって、とても大切です。楽しみながら理解していたと思います。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。